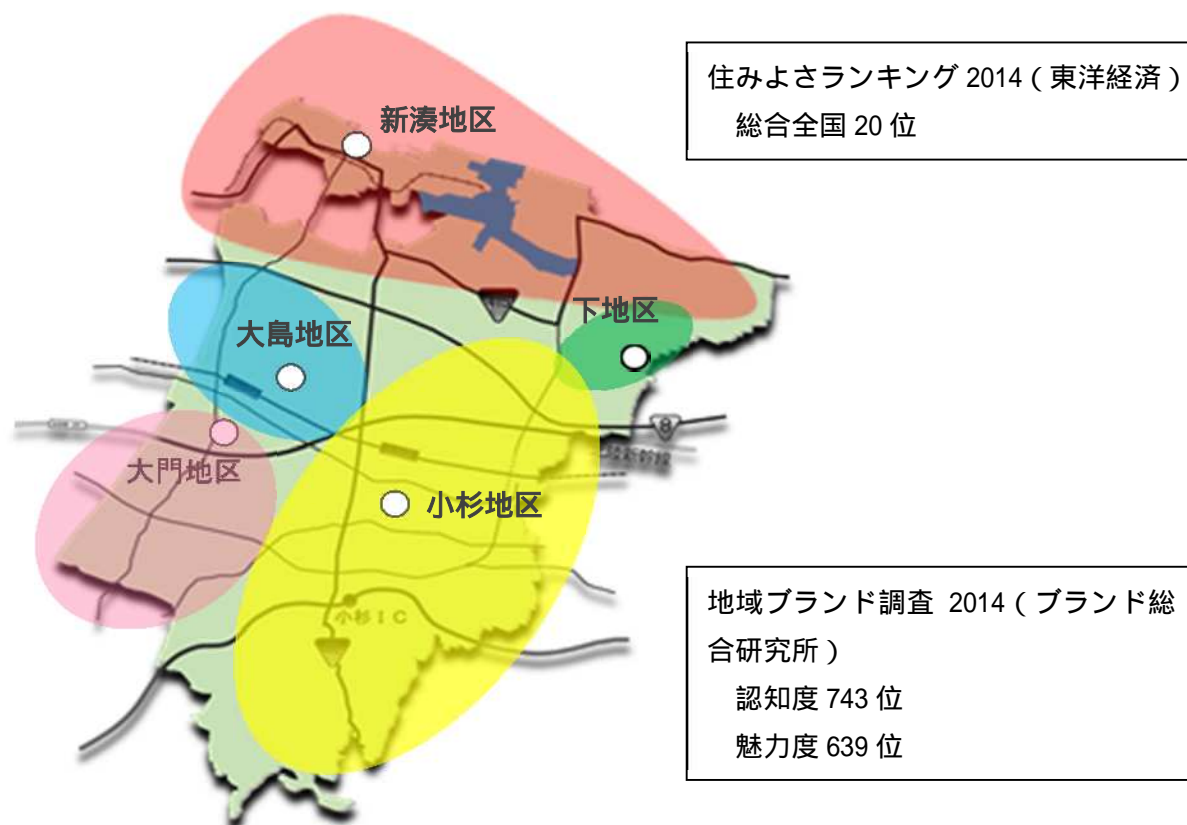


## 射水市の概要

面積は、109.43 km<sup>2</sup>。市域がコンパクトなまちです。

富山県のほぼ中央部に位置し、東に富山市、西に高岡市が面していることから、東西にあいの風富山鉄道、国道 8 号、北陸自動車道が通っています。市内南北は国道 472 号で結ばれています。

また、高岡市と新湊地区を結ぶ万葉線、市内全域を網羅するコミュニティバス（一部地区はデマンドタクシー）が走っています。

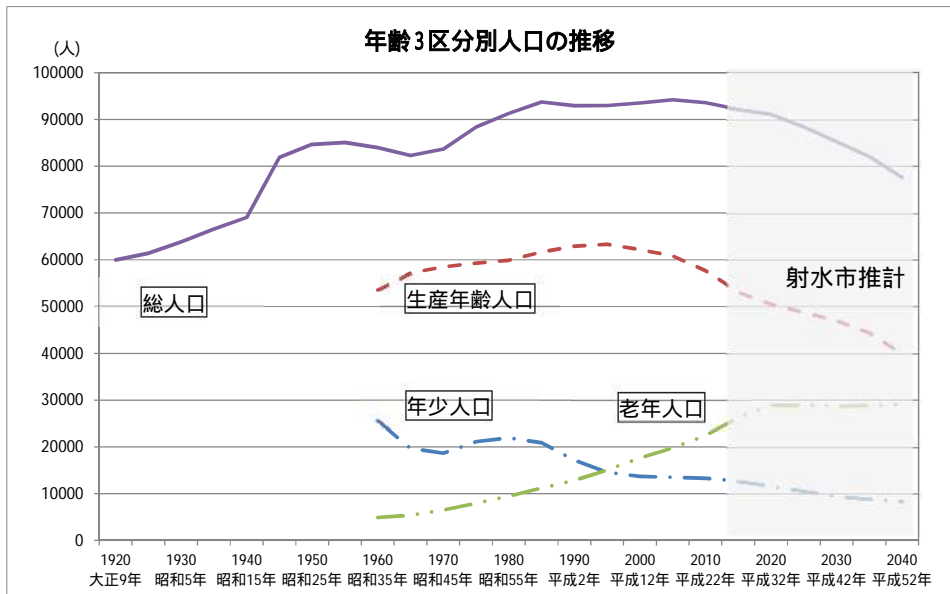


### 主な特徴

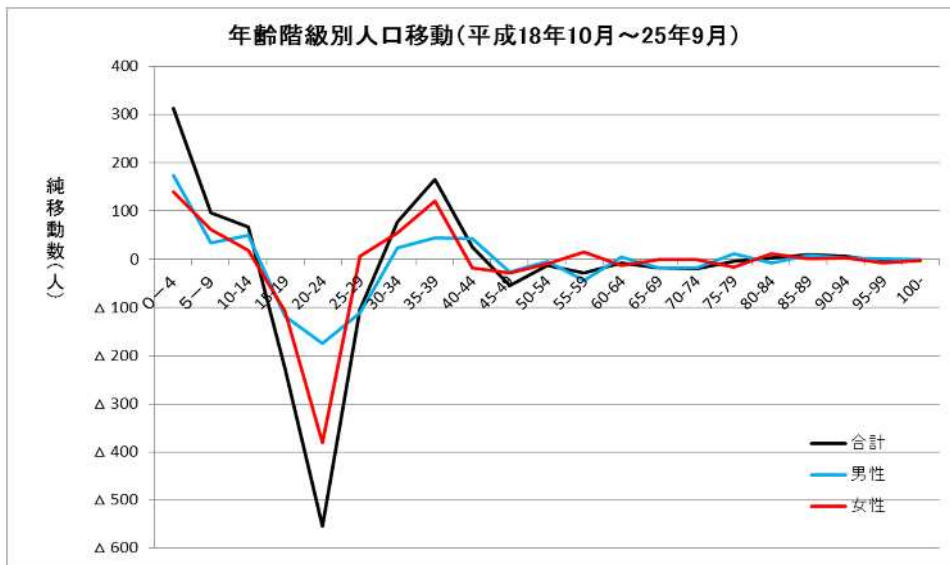
- ・既成市街地が 3 か所（新湊地区西側、小杉駅周辺、越中大門駅周辺）に分散している。いずれも、住宅が密集し、空き家や空き店舗が増え、高齢化と人口減少が進んでいる。
- ・国道 8 号や 472 号などの幹線道路沿いには沿道サービス型店舗、運輸業などが立地している。
- ・新湊地区東側には、射水市の基幹産業であるアルミ産業などの工業団地が広がっている。
- ・富山新港はコンテナ貨物取扱量が順調に伸びており、物流の拠点となっている。
- ・市のほぼ真ん中（新湊地区南側から小杉地区北側、下地区、大島地区北側）大島地区南側は田園地帯となっており、コシヒカリが栽培されている。近年は、小松菜などの園芸作物の生産も進めている。
- ・漁港では、白エビ、ベニズワイガニなどの富山湾の魚が水揚げされており、昼にもセリが行われることから、観光客も多く訪れている。
- ・富山県立大学、富山福祉短期大学、富山高等専門学校射水キャンパス、富山情報ビジネス専門学校、放送大学といった高等教育機関が立地しており、多くの学生が学んでいる。

# 1 人口

本市の人口は、平成 17 年（2005 年）をピークに減少に転じており、全国同様少子高齢化が進んでいます。死亡数が出生数を上回る自然減もこの時から進んでいます。また、20 歳から 24 歳までの若い世代の人口が他市町村へ流出しており、特に女性の転出が顕著になっています。



（出典：国勢調査、推計は射水市独自）



（出典：住民基本台帳）

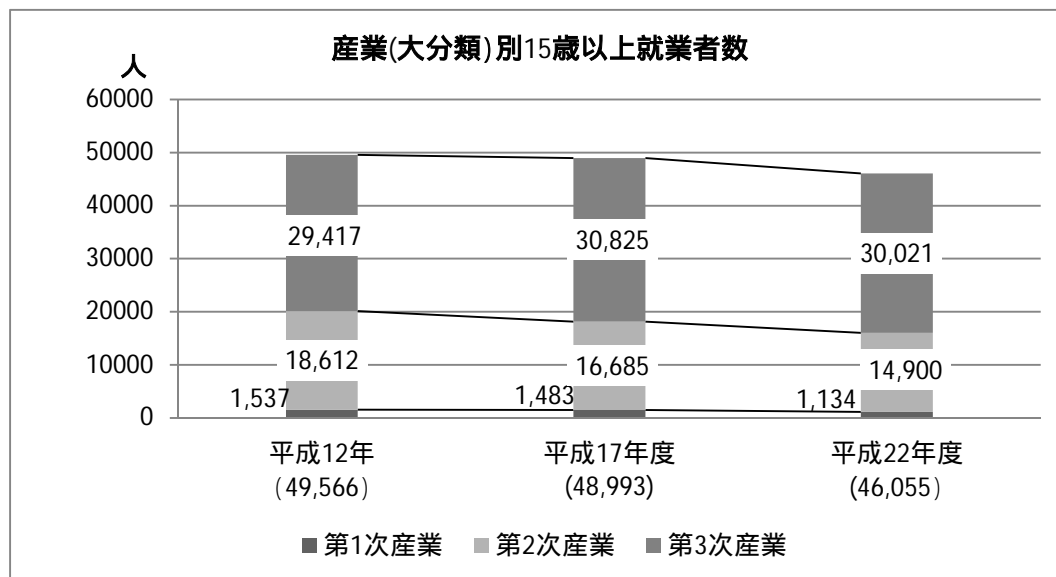
## 課題

- ・全国同様少子高齢化が進行している。
- ・若い世代の転出（特に女性）が多い。

## 2 産業

### (1) 就業者数

少子高齢化に伴い、全就業者数は減少しています。また、本市は、富山新港臨海工業団地を中心に製造業が盛んな地域ですが、第2次産業の就業者数は減少しており、第3次産業へ産業構造が変化しています。



(出典：国勢調査)

### (2) 第1次産業（農林漁業）

本市には、射水平野の豊かな田園にコシヒカリを始めとした水稲、大麦、大豆などが栽培されており、農業経営の中心となっています。そのほか、枝豆、こまつな、白ネギ、キャベツなどの園芸作物の生産拡大を図っています。

また、新湊漁港では300種類もの魚が水揚げされ、代表的なものは白エビ、ベニズワイガニがあります。併せて、トラフグやサクラマスなどの養殖にも取り組んでいます。

本市では、もみ殻バイオマスを活用したエネルギー活用と肥料化、木質バイオマス（間伐材）を活用した発電などの地域資源を活用した産業にも取り組んでいます。

#### 課題

- ・高齢化、後継者不足が深刻であり、担い手の確保が急務となっている。
- ・耕作放棄地や手つかずの山林がある。

### (3) 第2次産業、第3次産業

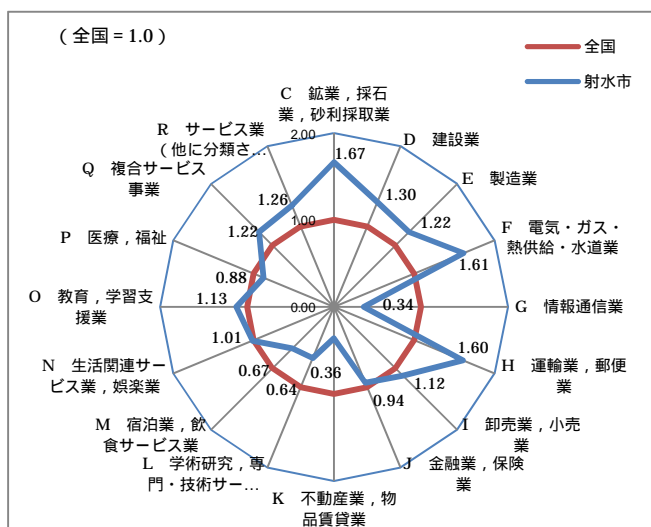
#### 事業所・従業者特化係数(中小企業振興計画より)

本市の産業構造の特徴を全国の事業所数の産業大分類別の構成比を 1.0 とする特化係数により比較すると C 鉱業、採石業、砂利採取業(1.67)、F 電気・ガス・熱供給・水道(1.61)、H 運輸業、郵便業(1.60)の事業所が多いことがわかります。

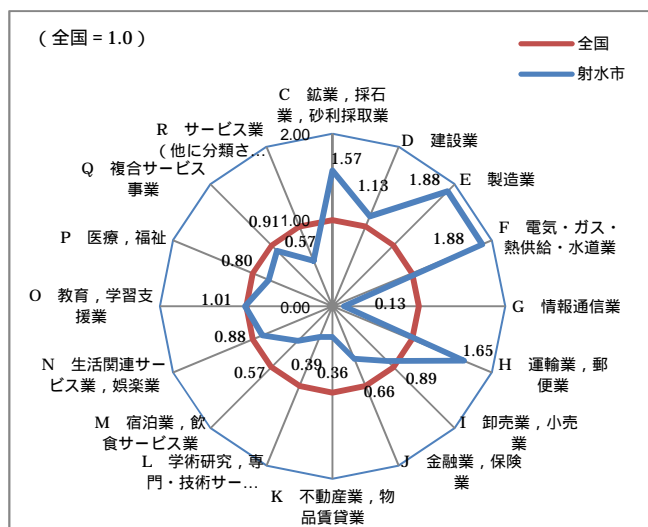
一方、G 情報通信業や K 不動産業、物品賃貸業、M 宿泊業・飲食サービス業等は、特化係数 1.0 を下回っています。

従業者数は E 製造業(1.88)、F 電気・ガス・熱供給業・水道業(1.88)となっており、市内事業所数にほぼ比例しています。

#### 事業所数の特化係数



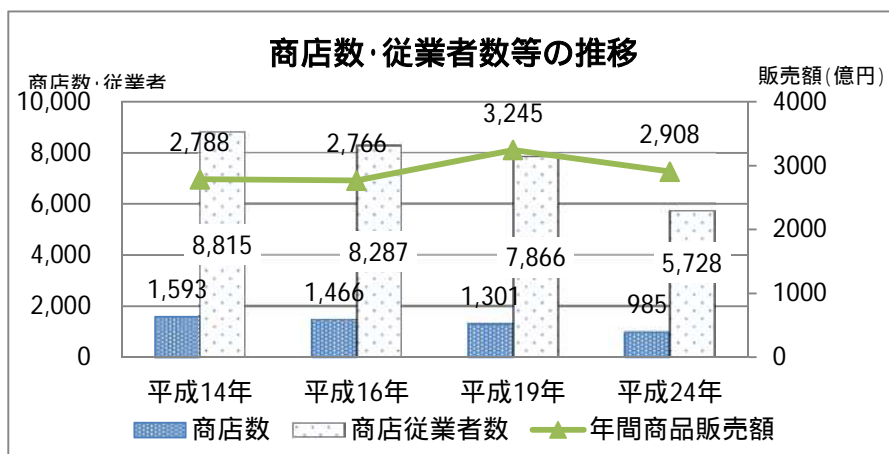
#### 従業者数の特化係数



(総務省・経済産業省「平成24年経済センサス」を基に作成)

#### 商業 -卸・小売業の商店数と従業員数の推移

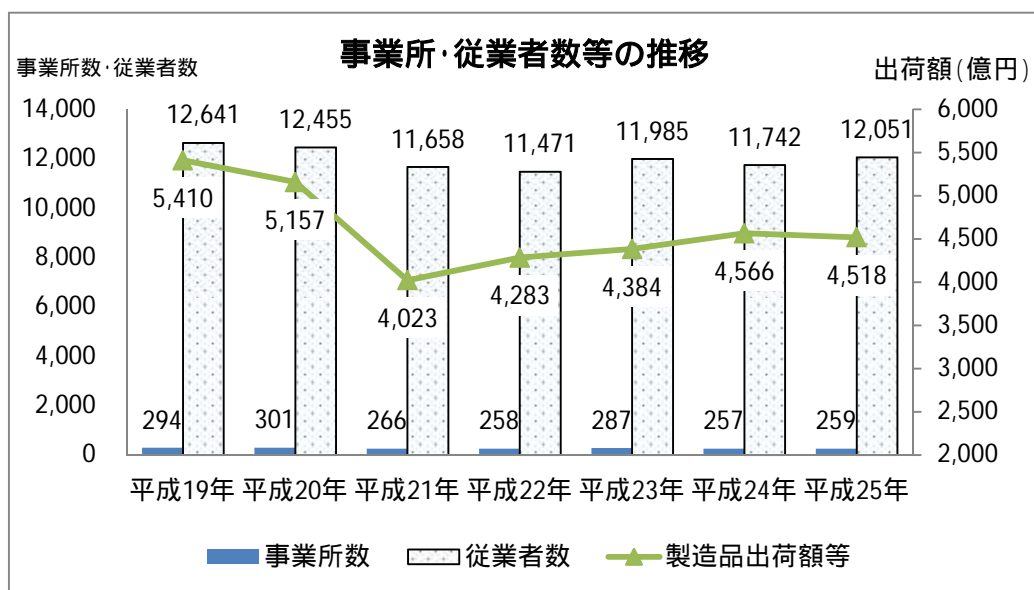
データは、平成14、16、19年は商業統計調査、平成24年は経済センサス活動調査であり、集計対象が異なることから一概には比較できませんが、商店数、従業員数とも減少傾向にあります。



(出典：商業統計調査、平成24年のみ経済センサス)

## 工業 - 事業所・従業者数と製造品出荷額等の推移

事業所数、従業者数はゆるやかに減少していますが、製造品出荷額は平成 21 年に落ち込んでおり、その後回復には至っていません。



(出典：平成 18 年から 22 年及び 24、25 年は、経済産業省「工業統計調査」、平成 23 年は、総務省・経済産業省「平成 24 年経済センサス」)

### 課題

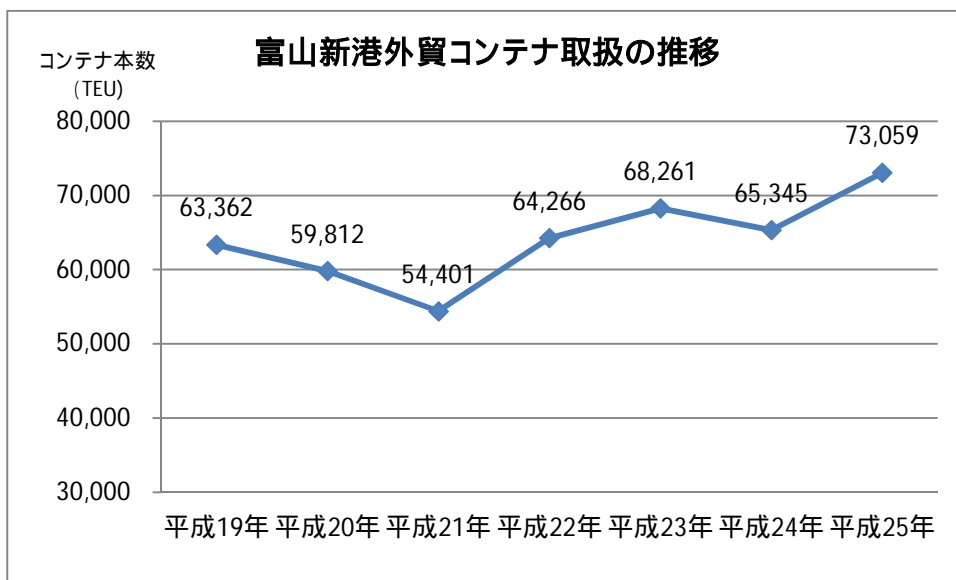
- ・ 郊外型大規模小売店の進出、インターネット販売の拡大などにより商店街のにぎわいが失われつつある。
- ・ 工業では、産業構造の変化、経済のグローバル化、原材料費の高騰などにより収益があがらない。特に中小企業の経営基盤が脆弱化している。
- ・ 従業員の高齢化が進み、専門的知識や技術の継承が難しくなっており、人材の確保が難しくなっている。

### 3 港湾・観光

#### 港湾

富山新港の外貿コンテナ取扱量は順調に伸びており、今後も環日本海交流の拠点として、コンテナバースの延伸やターミナルの整備による物流サービスの向上を進めています。

海王丸パークは、平成 25 年 1 月に恋人の聖地として選定されており、また、新湊大橋東側の新湊マリーナの整備など、にぎわいづくりも取り組んでいます。



( 出典：富山新港管理局 )

#### 観光

本市には、海王丸パーク、新湊大橋、内川周辺を中心とした射水ベイエリア、県民公園太閤山ランドなど魅力のある観光施設があります。また、曳山、獅子舞、やんさんまなどの伝統的な祭り、市民に親しまれているイベントなどがあります。

#### 市内の主な観光地・イベントの入込数(平成 25 年度)

	人数(千人)		人数(千人)
海王丸パーク	1,002	新湊曳山まつり	70
太閤山ランド	724	大門曳山まつり	10
道の駅カモンパーク新湊	758	越中だいもん凧まつり	45
川の駅新湊	29	小杉みこし祭り	15
きっときと市場	538	富山新港新湊まつり	50
海老江曳山まつり	20	新湊カニかに海鮮白えびまつり	35

( 出典：射水市港湾・観光課 )

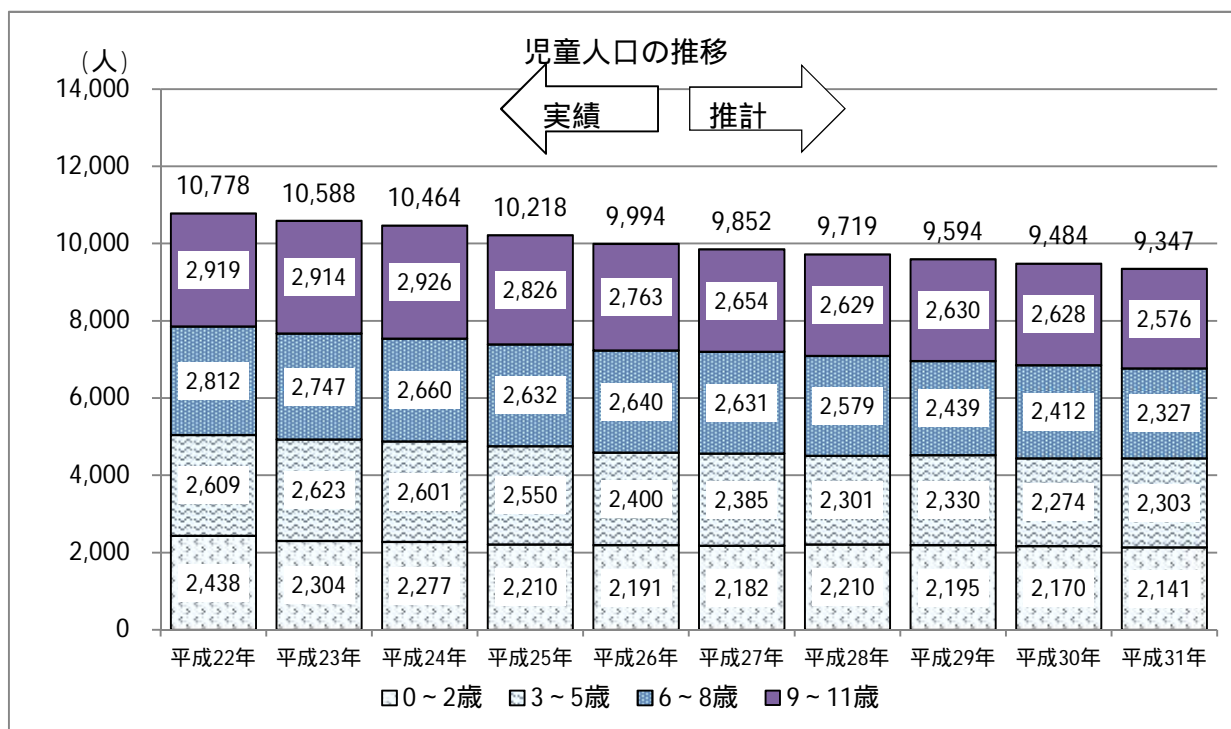
#### 課題

- ・観光資源が点在しており、一体となっていない。
- ・市内に宿泊施設が少ない。

#### 4 子育て・教育

射水市が特に力を入れてきた政策が子育て支援事業です。子ども医療費の助成や第3子以降の子どもの保育料無料化などの経済的支援、保育サービスや放課後児童クラブ（学童保育）などの仕事と子育ての両立支援など、子育てしやすいまちを進めています。

また、子どもたちの学力向上に向けて、複数の教員が協力して事業を行うチームティーチング指導員を中学校に、小学校では学習サポーターを配置して、きめ細かな教育を行っています。そのほか、いじめの防止や早期発見のための対応、子どもの健康・地場産食材を活用した給食の実施など、心身ともに健やかな子どもを育む取組を行っています。



(出典：住民基本台帳及び外国人登録人口、推計は射水市子ども・子育て支援事業計画)

#### 射水市の主な子育て環境

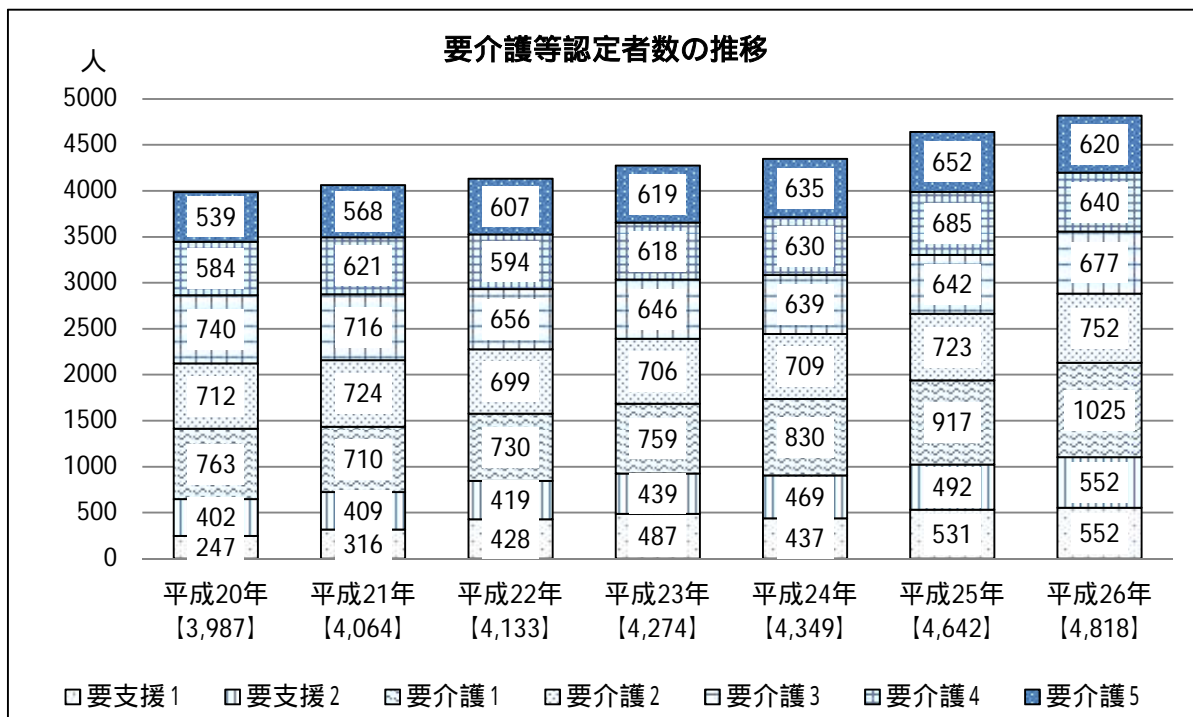
	実施個所又は支援内容
保育園数	25園(待機児童0人)
幼稚園数	5園
認定こども園	1園
子育て支援センター、つどいの広場	12か所
放課後児童クラブ(学童保育)	13校(全15校のうち)
子ども医療費助成	中学校3年生まで通院、入院費用全額助成
保育料	第3子以降無料

#### 課題

- ・子育てのニーズが多様化(仕事と子育ての両立、発達障害への対応、産後ケア、ひとり親家庭への支援など)している。
- ・子どもの学力が低下している。(家庭学習の低下、理解力の不足)

## 5 高齢者

本市の高齢者人口は急増しており、要介護認定者も増加しています。高齢者が健康で生きがいをもち、自立した生活が続けられるように、介護予防、健康づくり、相談体制を充実し、地域で支え合える地域包括ケアシステムを構築し、一体的な支援を行っています。



(出典：高齢者保健福祉・第6期介護保険事業計画より抜粋(各年10月1日現在))

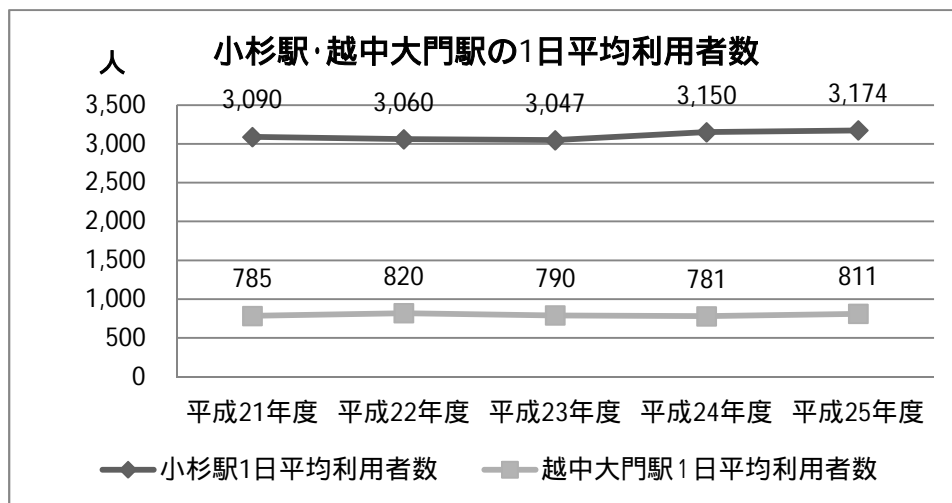
### 課題

- ・一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯も増加するため、地域での支え合いが必要である。
- ・介護予防、健康づくり、社会参加、就業といった高齢者ができる限り自立した生活が送れるような支援策が求められている。

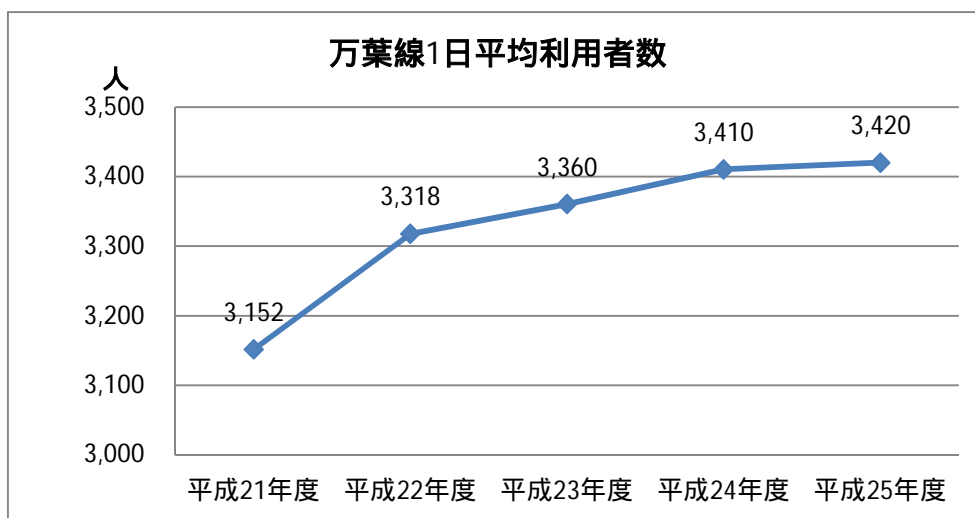
## 6 公共交通

平成 27 年 3 月 14 日の北陸新幹線開通により、本市の交通を取り巻く状況は大きく様変わりしています。本市には、あいの風とやま鉄道、万葉線の鉄道路線、市内を走るコミュニティバスとデマンドタクシー、民間の路線バスが運行されています。

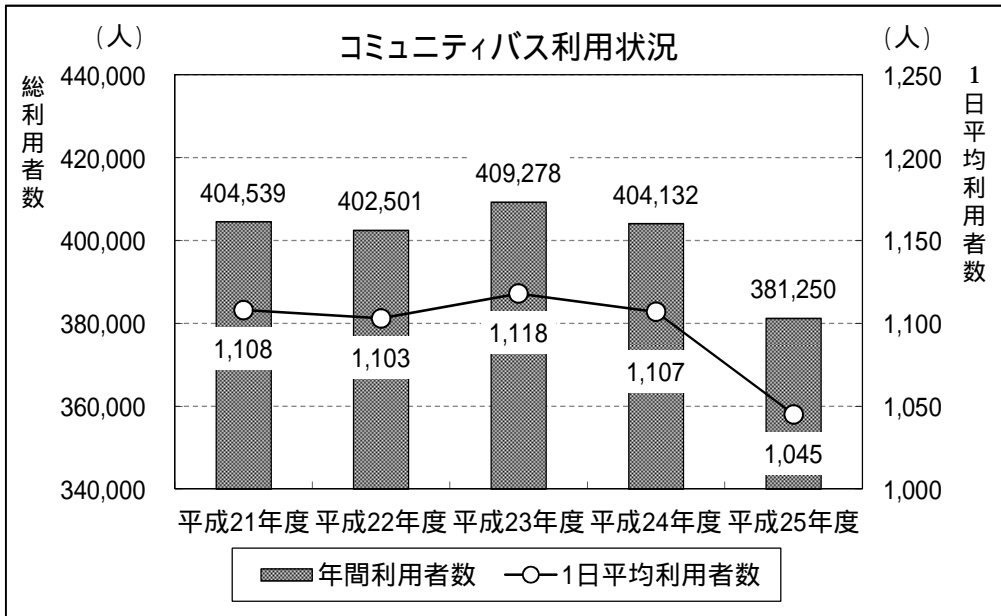
それぞれの路線の円滑な連携により、誰でも利用しやすい公共交通網の確保を目指しています。



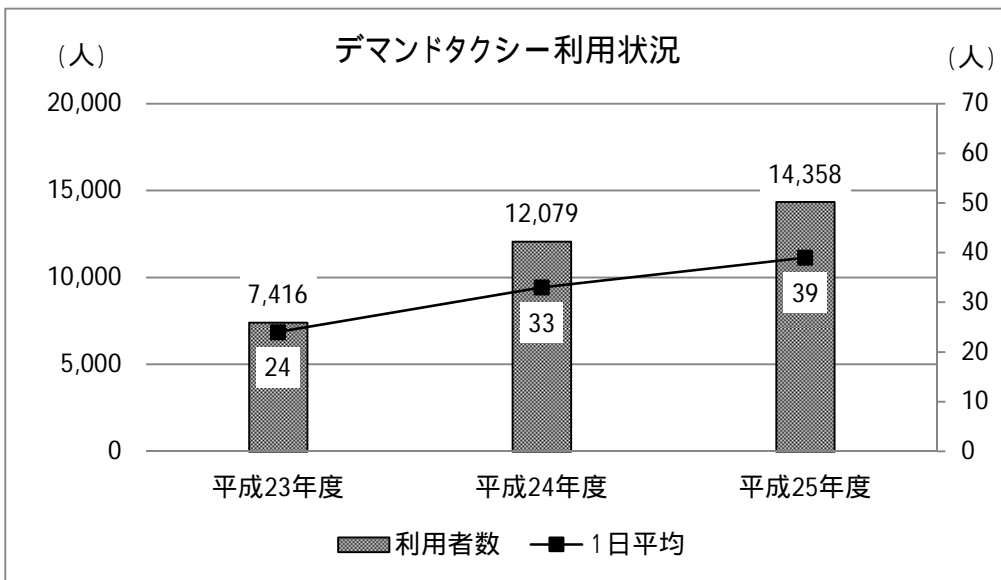
(出典：JR 西日本金沢支社)



(出典：万葉線株式会社)



( 出典：生活安全課 )



( 出典：生活安全課 )

\* 平成 23 年 6 月から大門・大島地区はコミュニティバスからデマンドタクシー（予約制の乗り合いタクシー）に移行。

**課題**

- ・ 運行経費に多額の費用がかかる。
- ・ 利便性を高めるため、交通ネットワークの強化が必要である。